

“わたしのまち”

# 品川区

## 都会の中で感じられる水とみどり

### 区内の身近なところで親しめる水辺・公園

品川区には多くの水辺や公園があり、区民にとって憩いの場となっています。目黒川や、天王洲など運河沿いでは水辺に親しめるような公園が多くあります。また区の内陸部でも古くからの庭園跡地が、みどり豊かな区立公園として区民の安らぎの場所、身近な観光スポットとなっています。今回は区内の大規模な公園を中心に水とみどりが感じられる身近な公園の魅力を紹介していきます。



品川浦の様子。高層建築物と江戸の風情を残す街並みはこの地域ならではの

### 区内に多く残る水辺

東京都の南部に位置する品川区については、多くの人は高層ビルの立ち並ぶ天王洲アイルや大崎副都心などの街並み、戸越銀座など区内を走る鉄道沿線の商店街などを思い浮かべるでしょう。

しかし、品川区には多くの水辺や公園、広場が身近に存在し、区民にとって憩いの場となったり生活しやすい環境を作り出しています。それは、区を訪れる人にとって、普段目にするのではない光景や日頃の生活でなかなか触れることのない雰囲気、楽しさを感じられる場所になっています。

### 品川区は「水辺のまち」

#### ◆江戸時代の情緒、品川浦

区内には運河や川沿いに魅力あふれる水辺があります。特に古くから残る浦や運河沿いは海を身近に感じられ、都会の喧騒を忘れさせ気持ちのリフレッシュさせる憩いの場所となっています。

その水辺の中でも特に情緒あふれる場所が品川浦です。品川浦は北品川地区に位置し、現在の天王洲運河の周辺です。江戸時代の頃、ここは豊富な水揚げを誇った漁場でもありました。現在は埋め立てが進んだものの、品川浦は今も多くの釣り船や屋形船が浮かぶ船だまりとなっており、船宿なども残る江戸の風情を残す地域です。品川浦



東品川海上公園ではしながわ運河まつりが開催され、目黒川を遊って川沿いの桜を観賞する船のツアーも実施されています

の近くを旧東海道が並行して走っており、江戸時代のまちの雰囲気やにぎわいを感じる観光スポットとしても楽しめます。

### ◆水辺を楽しめる東品川海上公園

天王洲南運河と目黒川がぶつかる河川部に位置しているのが東品川海上公園です。全体に芝生が敷き詰められた公園にはくじらをイメージした滑り台があり子どもたちに人気です。運河沿いにはボードウォーク（板敷の遊歩道）が設けられ、水辺を親しめるようになっていきます。

隣接する天王洲公園と合わせて、毎年春にしながわ運河まつりを開催しています。このまつりでは、桜の花見やさまざまな出店を楽しむだけでなく、公園の浮き桟橋から出航し、運河からまちを眺めつつレインボーブリッジま

での周遊を行ったり、目黒川を遊んで川沿いの桜を観賞する船のツアーが組まれるなど人気のイベントも行われ、多くの参加者が訪れています。

### ◆しながわ区民公園・しながわ水族館

勝島にあるしながわ区民公園は、花とひろばと水と緑の公園」をテーマにした公園として区民に親しまれています。区立公園としては規模が大きく、園内は緑も多く、300本の松並木や、花見の時期には130本の梅や400本の桜が咲くなど季節ごとの花が楽しめます。

園内にある「勝島の海」は勝島運河の海水を利用した1万平方メートルの人口湖です。湖とはいえ簡単な浜辺もあり、魚やエビ、カニなどの生物を観察することもでき、子どもたちが水辺で遊ぶこともできます。

公園には、しながわ水族館が併設されています。水族館は、品川と古くからゆかりのある、海や川との「ふれあい」をテーマにして1991年にオープンしました。イルカショーやアザラシショー、トンネル水槽といった人気の展示物もありにぎわっています。

館内には、東京湾で暮らす魚や「品川と海」といった現在の品川の海岸地域をジオラマとともに再現した展示が

あり、シャークホールの見るからに凶暴そうな「シロワニ」やカメラ型水中カメラを操作し魚の目線で水槽内を眺める「カメラ君の海中散歩」など、小規模ながら密度の濃い施設と季節にあっただイベントも行われ水族館への興味を高めようとしています。

### ◆五反田ふれあい水辺広場

一方、大崎・五反田地区にある「五反田ふれあい水辺広場」は目黒川沿いに設けられ、地域の再開発事業により整備された親水広場型の児童遊園です。水辺を親しめるだけでなく桜並木をはじめ四季を彩る花木が施された緑にあふれた広場もあり、地域の人の憩いの場になっています。

また、広場には「さくらてらす五反田」（大崎・五反田地区の地域貢献施設



## 歴史あるみどり豊かな公園

### 庭園跡地を利用した公園

品川区の内陸部には水辺の公園とは違った、古くからあるみどり豊かな公園も多くみられます。

### ◆戸越公園

戸越公園は古くから人々に親しまれ

運河の水を利用したしながわ区民公園の勝島の海。水辺の生き物を探る楽しさもあります



人気施設のしながわ水族館のトンネル水槽。イルカショー、アザラシショーも大人気です



設）があり、ギャラリーや食事・カフェタイムを楽しめるレストギャラリーが設置されています。

ている区を代表する公園です。江戸時代、肥後熊本藩主細川家の下屋敷の庭園跡を利用して造られました。池を中心に渓谷や滝、築山などが配された中を一周する回遊式庭園となっています。また、薬医門（正門）、冠木門（東門）が建てられ、大名屋敷の雰囲気



## 新・水とみどりの ネットワーク構想について

この構想は「水とみどりのネットワーク」において区が主体となり、公園・緑地や水辺空間の拠点と、それらを結ぶ街路・遊歩道などの動線の整備を行ったものに対し、平成20年に示された新しい構想では「拠点・ネットワーク・方針・対象・地域」の5つの観点を、多様な担い手の参加（行政・公共、区民、町会・自治会、企業、NPOなど）が連携し取り組むものです。

水とみどりのあり方や活用方法について話し合い、新たな公園の整備や既存公園の再生・維持管理、それらを結ぶ緑道の整備などを実現していきます。

さらに平成24年度に策定された「品川区水とみどりの基本計画・行動計画」により、①区民の安全や生き物の命を支える水とみどりを守り育てる②水とみどりが身近にある暮らしをつくる③品川らしい水とみどりを継承しまちづくりを活かす④区民と行政が一丸となって水とみどりを育む——の4つの基本方針をもとに行動計画を実施していきます。

醸し出しています。

春には池の周りを中心に桜、つつじ、初夏は黄菖蒲、盛夏はサルズベリが咲き誇ります。

また、秋はケヤキに桜、モミジ、大銀杏のみごとな紅葉が見られます。

冬場でも日本庭園らしく門松や雪吊りが見られたり、都内でも珍しいヒマラヤザクラが淡いピンクの花を咲かせるなど、四季折々の美しい花木や日本庭園の趣きが感じられる場所です。

また、公園では子どもたちが池の裏山の滝から流れる溪流で水辺の生き物を探して楽しんでいきます。

### ◆池田山公園

東五反田にある池田山は、備前岡山藩池田家下屋敷跡にあたります。公園は、傾斜した地形からくる高低差を生かした池泉回遊式で、高台部は遊戯・休憩ゾーン、低地部は回遊ゾーンとなっています。深山幽谷の雰囲気を感じ出す滝口があったり、池奥から望む水

## 水辺とみどりがまちの住みやすさに

### 水とみどりで魅力あるまちに

紹介した公園を含め区内には143か所（平成26年度）の公園があり、そのほかに設けられている水辺や緑地、広場など、日常生活において触れ合える場所がたくさんあります。

こうした区の持つ豊かな水辺やみどりをさらに充実させ、区内全域をネットワーク化し生活を豊かにするために、区では「新・水とみどりのネットワーク構想」を設けました。

特にまとまりのあるみどりを有する大規模な公園・緑地を「みどりの拠

辺を取り囲む庭園、石灯笼や井戸など園の場所によってさまざまな姿を見せてくれます。風景四季折々の花もきれいに咲き、特に春は桜だけでなく、ツツジが華やかに咲き乱れます。

また、本公園は、国公立・民間30庭園により発足した「東京の日本庭園おもてなし協議会」に参加しており、東京オリンピック・パラリンピックへ向けて観光客の誘致を図っていきます。

点」と位置付け、環境保全や景観面、歴史、文化、観光、交流、レクリエーション、防災といった多様な機能を持たせ、暮らしやすさを向上しようと取り組んでいます。

今後は、より具体的な数値目標を定めた「品川区水とみどりの基本計画・行動計画」により「水とみどりがつなぐまち」の実現をめざしていきます。各地域のみどりや水辺が憩いの場としてだけでなく、生活しやすいまちづくりにもなっています。



池田山公園のツツジは複数種が咲き、長い期間楽しめます

雪の降った戸越公園は趣が増した風情をたたえます



戸越公園の薬医門。門松と都内では珍しいヒマラヤザクラの様子